

第77回 千葉県中学校総合体育大会 バasketボール大会

女子準決勝 戦評

〔女子準決勝〕

昭和学院中学校 (市川・浦安)	66	$\left\{ \begin{array}{l} 20-7 \\ 18-13 \\ 15-9 \\ 13-26 \end{array} \right\}$	55	成田市立 吾妻中学校 (印旛)
--------------------	----	--	----	-----------------------

【評】

勝てば関東大会出場の準決勝、両チームともディフェンスはオールコートでスタートした。激しいディフェンスから先に流れを掴んだ昭和学院は④山本の3Pシュートなどで得点を重ねる。一方の吾妻は⑦平山のドライブを中心に得点するが、昭和学院がリバウンドを取り、セカンドチャンスをものにし、20-7で第1Qを終える。第2Q、吾妻は⑥白石のインサイドを中心に得点するが、昭和学院も⑨佐々木のドライブを中心にオフェンスを展開し、38-20と昭和学院がリードを広げ、前半を折り返す。

後半に入っても昭和学院はディフェンスのプレッシャーを緩めず、追いつがる吾妻に流れを渡さない。第4Qに入り、吾妻④谷口の連続3Pシュートや⑦平山のドライブなどで流れを掴み得点を重ねるも、一歩及ばず66-55で昭和学院が勝利。関東大会への切符を手にした。敗れはしたものの、最後まで粘り強く自分たちのプレーを貫いた吾妻の選手たちの健闘を称えたい。

〔女子準決勝〕

習志野市立 第一中学校 (習志野)	38	$\left\{ \begin{array}{l} 4-16 \\ 15-11 \\ 8-12 \\ 11-12 \end{array} \right\}$	51	市川市立 第六中学校 (市川・浦安)
-------------------------	----	--	----	--------------------------

【評】

関東大会出場をかけた準決勝、市川六は⑩津野地の3Pシュートや⑤川島の1対1で得点して流れを掴み、第1Qを12点リードのスタートダッシュに成功する。一方の習志野一も第2Qに入り、④小山⑤森のインサイドを中心に得点して詰め、19-27の8点差で前半を終える。

第3Qに入り、大概に得点が入らず我慢の時間が続くが、市川六⑤川島の連続得点でリードを広げ、27-39で最終Qに入る。追いかける習志野一はディフェンスのプレッシャーを強め勝負に出る。残り5分⑦松延の3Pシュートで7点差まで差を縮める。しかし市川六も⑤川島の1対1や⑦志村のインサイドで差を広げ、残り3分市川六13点リードで習志野一がタイムアウト。タイムアウト後、習志野一⑦松延のドライブなどで10点差まで詰めるも、市川六⑩津野地の3Pシュート、④上田のバスケットカウントで再びリードを広げ、市川六が決勝進出及び関東大会出場権を獲得した。最後まで全力プレーを貫いた習志野一の選手たちの健闘を称えたい。

第77回 千葉県中学校総合体育大会 バasketボール大会

男子準決勝 戦評

〔男子準決勝〕

市原市立 五井中学校 (市原)	55	}	<table border="0"> <tr><td style="text-align: center;">9-9</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">15-16</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">20-14</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">11-10</td></tr> </table>	9-9	15-16	20-14	11-10	}49	船橋市立 海神中学校 (船橋)
9-9									
15-16									
20-14									
11-10									

【評】

新人戦、選手権に続き3度目の対戦となった試合。これまで1勝1敗とし、関東大会出場をかけた大一番となった。

両チームとも硬さが見られた立ち上がりだったが、海神は④駒木のポストプレイやミドルジャンパー、3Pと多彩な攻撃で得点を重ねる。対する五井は⑤稲村の速攻や④永野のドライブで応戦し、同点で第1Qを終了する。第2Qに入ると、五井は⑥小原の立て続けのシュートが決まり勢いに乗ると、④永野の力強いリバウンドからのシュートも決まりリードを奪う。一方、高さで不利な海神は、⑤菅野の体を張った献身的なディフェンスが随所に見られ、徐々に応戦していく。⑦中坂のミドルシュートや④駒木のバスケットカウントも決まり、24-25の海神1点リードで前半を折り返す。

第3Qに入り、粘り強いディフェンスを見せていた海神のファールが増えはじめ、五井は⑧ガルシアのインサイドやフリースローで得点を重ね、五井がリードする展開に。それでも海神は④駒木の3P、⑦中坂のバスケットカウントで点差を詰め、44-39の5点差で最終Qへ突入する。第4Q、五井は⑧ガルシア中心に得点を重ねていく。海神は⑤菅野が残り4分30秒でファールアウトとなるが、集中力を切らさず、④駒木、⑥藤田、⑦中坂のシュートで2点差まで詰め寄る。それでも、ゴール下の優位性をもった五井が逃げ切り、決勝へ駒を進めた。敗れはしたものの、ベンチも一体となって最後まで戦い続けた海神の選手たちの健闘を称えたい。

〔男子準決勝〕

大網白里市立 大網中学校 (山武)	50	}	<table border="0"> <tr><td style="text-align: center;">12-16</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">16-14</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">14- 8</td></tr> <tr><td style="text-align: center;"> 8-19</td></tr> </table>	12-16	16-14	14- 8	8-19	}57	市原市立 ちはら台南中学校 (市原)
12-16									
16-14									
14- 8									
8-19									

【評】

関東大会出場権のかかった準決勝、大網はハーフコート、ちはら台南はオールコートディフェンスでスタート。ちはら台南はリバウンドからの速攻、⑧平野のドライブインで得点を重ねる。一方大網は⑩風間の3Pやドライブ、⑦山田のインサイドを中心に攻め、一進一退の攻防を続けるが、ちはら台南が粘り強いリバウンドからのセカンドチャンスやスティールからの速攻を決め、一歩抜け出す。大網はタイムアウトで落ち着きを取り戻すと、⑦山田の3P等で食らいつき、前半を28-30で折り返す。

第3Qに入り、大網は激しいディフェンスやリバウンドで流れを引き寄せて逆転し、一時8点差とするが、ちはら台南もディフェンスでギアを上げて早い展開に持ち込み、42-38の大網4点リードで最終Qへ突入する。ちはら台南は第3Q後半の勢いそのままに激しいディフェンスからトランジションバスケットを展開すると、④栗原、⑧平野のシュートが決まり、逆転に成功する。タイムアウト後、大網も⑩杉本のスティールからファールをもらい、流れを止めようとするが、ちはら台南はすかさず⑨仲村が3Pを決め突き放す。大網が激しいディフェンスでボールを奪いにいくも、ちはら台南が落ち着いて逃げ切り、勝利を収めた。最後まで自分たちのバスケットを出し切り、攻防を繰り広げた両チームに拍手を送りたい。

第77回 千葉県中学校総合体育大会 バスケットボール大会

男女決勝 戦評

〔女子決勝〕

昭和学院中学校 (市川・浦安)	53	}	50	}	市川市立 第六中学校 (市川・浦安)

【評】

同支部同士の対戦となったこの試合、両チームとも堅実なディフェンスで簡単には得点を許さず、24秒オーバーのブザーが何度も鳴るロースコアな展開でスタートした。第2Q、市川六⑤川島がこの試合初めてドライブから得点し、突き放しにかかる。対する昭和学院は、ハイピックやドライブ、インサイドの合わせなど、多彩なオフェンスで追撃をはかる。両者一步も譲らない戦いは、市川六が5点リードで前半を折り返す。

第3Q、市川六は昭和学院④山本をフェイスガードし、得点を封じる。昭和学院もオールコートでプレッシャーを強め、点差を縮めようとするも、④山本がファウルトラブルに陥り、その隙に市川六が⑤川島を中心に得点し、リードを広げる。昭和学院も⑨佐々木が攻守ともに活躍し食らいつき、37-45で最終Qへ突入する。第4Qに入り、昭和学院がどのポジションからもリズム良く得点し、点差を縮める。さらに④山本が交代直後に3Pを決めて流れをつくり、残り2分30秒でついに逆転し、昭和学院がこの試合初めてリードする。最後まで食らいつく市川六だったが、そのまま昭和学院がリードを守り、昨年度に引き続き優勝を果たした。同支部で良く知っているチーム同士だからこそ、お互いの強みを封じる素晴らしいゲームであった。健闘を称えるとともに、両チームの関東大会での活躍を期待したい。

〔男子決勝〕

市原市立 五井中学校 (市原)	54	}	62	}	市原市立 ちはら台南中学校 (市原)

【評】

女子と同様に同支部対戦となった男子決勝戦、両チームともハーフコートディフェンスからスタート。序盤は走り合いとなり、お互い中々得点が決まらない展開となるが、ちはら台南が⑪永尾のジャンプシュート、④栗原のドライブが連続で決まると、流れを掴み、リードを広げる。対する五井も④永野、⑥小原の得点で応戦するが、第1Qで10点ビハインドの苦しい立ち上がりとなった。第2Qに入り、五井は④永野のジャンプシュートやリバウンドシュート、3Pが連続で決まり、差を詰めるが、ちはら台南も速攻や1対1で着実に得点を重ね、前半を22-35のちはら台南リードで折り返す。

第3Q序盤、お互いディフェンスのプレッシャーを上げ、得点できない我慢の時間が続くが、五井が⑧ガルシアのレイアップやステップイン、⑤稲村の3Pで詰め寄り、最終Qを迎える。第4Qに入り、ちはら台南⑪永尾のスティールから④栗原がリバウンドシュートを決めると、そこから両チームの一進一退の攻防が続く。五井は⑥小原が3P、リバウンドシュートを決め、流れを引き寄せるが、対するちはら台南も⑧平野を中心に落ち着いてシュートを決め、追従を許さない。そのままちはら台南が逃げ切り、初優勝を果たした。

両チームともめまぐるしい攻守の切り替え、激しいぶつかり合い、ひたむきに戦う姿勢の見える決勝戦であった。県代表として関東・全国に挑んでもらいたい。

